

道岳連だより

広報 NO60
平成22年2月1日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

2011年（平成23年）の年頭にあたり

北海道山岳連盟 会長 小野倫夫



あけましておめでとうございます。北海道山岳連盟各団体と会員の皆さんに年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年の総会ではからずも指名を受け道岳連の舵取りをすることになり初めての年を迎えます。これまで道岳連の活動に長年大きな貢献をされた鎌田耕治会長からバトンタッチされその重責と不安が大きく押し掛かっています。

幸い新体制では、微力な私を支える留任の常任理事に加えてキャリア豊かな人材を得て、昨年一年間、道岳連の業務を遂行することが出来ました。

昨年は前年のトムラウシ遭難事故以来、道岳連の遭対研修はもとより、他山岳団体との共同でのセミナー、シンポジウムなどの遭難防止対策についての努力を重ねてきました。残念なことに日高での大学生パーティー、中高年女性パーティーの死亡事故やヘリに救出される事故などがありました。自然相手の登山では遭難事故を皆無にすることは非常に難しいと痛感しました。

しかし、我々山を愛する者は、遭難防止・対策について種々の研修への努力を怠らずに活動することが必要であり、義務であり責任でもあります。

道岳連の大きな行事であった第24回全道交流登山、第2回トレイルランニング、日本山岳協会50周年記念講演会など、会員各位の協力により成功裡に終わりました。とりわけ、全道交流登山会では苫小牧山岳会や実行委員会の皆さんのご尽力で盛会に開催できましたことを感謝いたします。来年度は釧路岳連主管での開催が決定しておりますので、釧路岳連の皆さんには一方ならぬお世話をおかけしますのでよろしく願いいたします。全道各地の皆さんとの再会が楽しみです。

国体関係では第65回千葉国体では男女ともそれぞれ男女総合（天皇杯）4位、女子総合（皇后杯）8位と連続5年入賞し北海道の国体代表として大きく貢献しました。

各委員会活動は順調に経過しておりますが、今年度の事業もまだ残されており、会員各位の積極的な参加をお願いします。

これからの冬山では例年荒天、雪崩による遭難事故が発生していますので、各山岳会・連盟とも日ごろの訓練、研修などにより十分な技術、経験を積み、よきリーダーのもと安全登山を心がけてください。

現在、山岳界を取り巻く情勢は厳しいものがあります。特に自然環境問題については、これから一層顕在化してきます。我々も社会的に認知された団体として責任ある対応をしなければなりません。

最後に、来年度は北海道山岳連盟創立60周年を迎えるのでそのメモリアルイベントを企画します。ご意見をお寄せください。

前会長 鎌田耕治さん 北海道スポーツ賞受賞

北海道山岳連盟前会長の鎌田耕治さんが平成22年度の「北海道スポーツ賞」を受賞しました。

この賞は、毎年度、北海道教育委員会が北海道におけるスポーツの普及・発展に資するため、スポーツの振興に寄与した個人（団体）並びに優秀な成績を収めた個人（団体）に対して贈り表彰するものです。

平成22年度はスポーツの振興に寄与した4名とスポーツの優秀な成績を収めた10名並びに2団体が受賞しました。



平成22年11月17日ホテルライフオート札幌で、高橋知事はじめ多数の来賓出席のもとに表彰式が行われました。各受賞者の功績について紹介されたあと、受賞者一人ひとりに北海道教育委員会教育委員長から表彰状並びに記念品が贈られ、スポーツの振興に寄与し受賞した4名を代表して鎌田耕治さんが挨拶を述べました。（記 事務局 上野敏彦）

道岳連で祝賀会 道岳連では12月17日（金）鎌田さんの受賞をお祝いする会を開催しました。会場の「レストラン大公」（大通）へは、阿地さん西さんの両顧問をはじめ全道各地から45名の方々が馳せ参じました。予定していた会場が狭く感ずるほどの盛会になりました。

全員での記念撮影のあと、小野会長の挨拶からはじまり、阿地さん西さんのお祝いの言葉、田中さん（苫小牧こぶし）の祝電披露、増子さん（クーラカンリ）による花束贈呈と続いて、鎌田さんが受賞の喜びを語りました。

道岳連顧問で前副会長の西條さんの音頭で祝杯を挙げ、冒頭に鎌田さんの登山の歴史を御自身の操作・説明でスライド上映があり祝宴が始まりました。祝宴中、鎌田さんと特に親交の深かった札岳連の魚住さん、小樽山岳会戸谷さん、長万部山岳会藤田さん、函館岳友会石田さんの4氏のテーブルスピーチがあり、和やかなうちに太田福会長が終宴を宣言しました。

創立60周年記念事業 山岳スキー教程DVD作成始まる

11月19日旭川で開かれた今年度第7回常任理事会に、指導委員会から提出された「山岳スキー教程改訂およびDVD製作」の企画が、来年度の道岳連創立60周年事業のひとつとして承認され、早速22日に藤木常任理事を運営委員長としてプロジェクト会議が開かれた。運営委員会は藤木運営委員長ほか、秋元（札幌山の会）、荒掘（新得）、濱崎（はまなす）、森（帯広）、芳澤（登別）、明田（ロビニア）、西谷（帯広）の各氏で構成される。

12月中に定山溪で運営スタッフとカメラマンなどと綿密なスケジュール、内容構成などの打合せを終え、1月8日からニセコで撮影に入った。撮影はそのご各地で行われ、3月いっぱい終了する予定。その後編集作業が行われ、今年中に完成する予定。DVDには簡単な教程書が付けられる予定で、その成果が期待される。

作成総額は60万円の予定で、その内30万円が道岳連の特別会計から出資され、残りはDVD販売収入と業者・道岳連会員からの賛助金で賄う予定である。

今後の諸行事

◎クライミング・ジュニア強化合宿

- ・期 日 2月5日(土)、6日(日)
- ・場 所 レインボウクリフ
- ・JFA ユース日本選手権代表選考会

◎山岳スキー技術講習会

- ・期 日 2月5日(土)、6日(日)
- ・場 所 三段山・白銀荘
- ・参加対象 道岳連会員
- ・参加費 未定
- ・内 容 山岳スキー講習会、検定会
- ・申 込 藤木晴夫、森 紘昭
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎山岳スキーツアー

- ・期 日 2月19日(土)、20日(日)
- ・場 所 ニセコアンヌプリ周辺・五色温泉
- ・参加対象 道岳連会員
- ・参加費 10,000円
- ・内 容 雪崩ビーコン操作、冬山スキーツアー
- ・申 込 秋元節雄 (T&F011-583-3016、akimoto-s@jcom.home.ne.jp)
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎山岳スキーツアー

- ・期 日 ; 3月19日(金)～21日(月)
- ・場 所 ; 八甲田山・高田大岳
- ・参加対象 ; 道岳連会員
- ・参加費 ; 30,000円(フェリー・宿泊・バス)
- ・内 容 ; 冬山での非常時対策、八甲田山系冬山スキー
- ・申込締切 ; 2月18日(金) 藤木たか子 (T&F0143-85-5897、MEIL takachan0509@nifty.com)
ゆうちょ銀行振込(記号:19080 番号:28444931 藤木 たか子)
- ・詳 細 ; 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎競技部ブロック研修会

- ・期 日 3月5日(土)6日(日)
- ・場 所 深川青年の家
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 競技部ページ参照

諸行事の報告

◎山岳指導員養成講習会

頑張れ指導員の卵!

昨年暮の12月11日12日、今年度山岳スポーツ指導員の検定を受ける人たちの講習会が日高登山研修所で

行われた。すでに5月に1回目の講習を終えており、今回は積雪期の講習ということであった。専門科目40時間の縮めの公衆であるということで、全道各団体から集まった18名の受講生が熱心に受講した。夏期講習より数名少なかったのは少し残念だった。

内容は、初日は机上講習で、1講目が神山講師による「読図の知識と体験談」、2講目が滝沢講師の「冬山の気象と凍傷について」、3講目は明田講師の「積雪期の歩き方・用具」が行われ、夕食を挟んで4講目の藤木講師による「積雪状態の認識と雪崩に遭遇しないために」が行われた。

二日目は悪天候の中、実技講習を日勝峠付近から研修所に変更して行われた。内容は、沙流川の土手を使ったアイゼン歩行、カラビナの架け替え、体育館での懸垂下降、テント設営などで、寒気の中、それぞれポイントを抑えながらの熱心な講習が行われた。

要点は、これらの技術を修得するだけでなく、初心者にもどう教えるか個々のテクニックのもつ意味などが、講師によって丁寧に説明され、場合によっては受講者に説明を求めるなど、検定そのままの実習が行われた。



山岳指導員養成講習会を振りかって

登別山岳会 佐藤由紀彦

5月29日、30日（無雪期）12月11日、12日（積雪期）の山岳指導員養成講習が行われました。道内の各山岳会から20名を越える参加者が集まりました。私もまだまだ経験は浅いのですが、登別山岳会の一員として参加させて頂きました。

1.実技講習の感想

無雪期の実技講習として、上滝ロックにてアルパインクライミングの実習が行われました。ロープの扱いが初めての方、クライミングに慣れた方など、様々なレベルの受講生がいる難しい環境であったと思いますが、本当に熱心にご指導いただきました。時間の経つのも忘れるくらい充実した講習でした。実際、終了したのは午後5時近くでした。講師の皆様のあつい意気込みを感じました。

積雪期の実技講習では、12月の日高だと言うのに雪が殆ど無い悪条件ながら、雪上歩行（アイゼン無し・装着）、ピッケルの使い方、耐風姿勢などが行われました。初めて経験する方を教えあうなど指導法を意識した講習が行われました。雪上でできなかったことは残念でしたが、その分時間をかけてお互いの動きを確認しながら受講することが出来ました。忘れないうちに、雪上で訓練したいと思いました。

2.机上講習の感想

積雪期の机上講習は、神山理事長の地形図・コンパス、明田指導委員長の積雪期の歩き方・登山用具、藤木主任検定員の雪崩・セルフレスキュー、滝沢上級指導員の気象・低体温症・凍傷。これらの内容は、積雪期に安

全登山を行う上でどれも欠かせない重要な知識で受講者は真剣に取り組んでいました。会場は寒かったですが熱気にあれていました。

雪崩の講習では、講師の皆様の体験にも話しが及び興味深いものでした。気象・低体温症・凍傷の講習では、一步間違えると積雪期においては死にも直面する問題なので確実に身につけたい知識と感じました。

今回の講習において、道内各山岳会に同期ができたことは私にとって大きな収穫でした。色々な情報交換や相談をしながらお互いのスキルを向上させていけたらと思います。何より同期の存在は励みになります。

3.合格後の抱負

合格後は指導員として、今までのおまかせ意識ではなく、主体的に山に取り組む努力をしたいです。登山で最も重要な事は安全に登山して帰ってくる事だと思います。そのために必要な事とは。無理のない計画を立てる事ができる事。正しい知識や経験の裏付けからの確な状況判断、危険な場合には中止する、引き返すなど決断ができる事だと思います。

熱心に温かい御指導いただきました、講師の皆様の熱意に答えるために、同期の指導員と切磋琢磨しながら講習会で学んだこと、身につけた技術を磨いて行きたいと思います。

スポーツ指導員の自覚と活用について

理事長 神山健

日山協のスポーツ指導員制度ができてから既に数十年が経ちました。

その指導員制度を示唆する本多勝一氏の文を見つけましたので、一言申し上げます。それは本多氏の自著「山を考える」(朝日文庫)の中で、山の事故の責任問題がいい加減にされている原因の一つとして示したものです。少し長くなるが紹介します。

「登山の実力を客観的に測定する方法が、特に日本では欧州やソ連にくらべて遅れている。したがってリーダーなりガイドなりになるための資格に社会的制約がほとんどなく、全く無知なシロウトがベテラン顔していても、初心者や一般の人にはわからない。自分自身も無知の程度がわからない。

困ったことですが、山というのは観衆の見ているところで行われるスポーツではありませんから、・・・(中略)・・・他のスポーツでは考えられないような無免許運転がよくあります。それも本人だけが死ぬのであれば自己過失ですみますが、大勢の初心者を連れてゆくリーダーが無知・無資格の無免許者だったら大変なことになります。」

この本は1986年に出版されたものですから、既に指導員制度は存在しています。しかし氏はそのことにひとつも触れていません。おそらく知らなかったのだらうと思います。

それから約四半世紀、今では厳格な講習と検定を経て優秀な指導員が輩出されています。けれどもその存在は、本多氏の文が書かれた当時とどれほど変化したのでしょうか。間違いなく一般の人々には認知されていないと思います。昨年のトムラウシ夏山大量遭難を例に引くまでもなく、数々の業者ツアーなどのあり方など、指導員という存在があることなど知っている気配は感じられません。もっと世間に認知されてしかるべきではないでしょうか。

指導員制度に背を向ける人は多いかもしれません。しかし、これだけの遭難、それも初歩的な遭難が相次いでいる現実の中で、指導員制度そのものは必要なものではないでしょうか。

ではどうやって世間に認知されたらいいのか。

前会長の鎌田氏が常々言っていた言葉を思い出します。

「指導員が指導員としてどんな活動をしたらいいか考えているのか。指導員としての自覚を持って行動しているのか」

一つの提案がそこにあるような気がします。

道岳連では、主催する行事の指導役は指導員資格を持つ人に担ってもらうようにしています。そして私は、頼まれた登山の引率で、指導員制度の存在と、参加する人たちもリーダーの資格を問う心がけを持ってもらい

たいという趣旨の話をするようにしています。

各山岳会・連盟でも、指導員を積極的に活用していく姿勢を進めていただきたいと思います。また、指導員の方々も、ただ資格を持っているということだけでなく、その資格を生かす道に積極的に踏み込んで欲しいと思います。

◎平成22年度冬期遭難対策研修会報告

遭難対策委員長 斉藤邦明

ニセコ五色温泉において平成22年12月18日・19日2日間、道内各地より一般の参加者も含め21名が参加し開催しました。

一日目は、ホワイトアウトを想定し、頭から袋をかぶり方角が分からない状態で目的地点に向かって歩く研修がおこなわれ、一歩目から曲がり始める人や、両足の歩幅の差が少しずつカーブするなど、目標にたどり着くことは、困難であることが体験されました。磁石を使うことにより、見えていない目標に向かうことができ、さらに練習を積むことで方向性の精度が格段に上がる事も実証されました。



ビーコンは、高機能のものが多くなったが機種により操作が異なり、緊急時に操作不能に陥ることがあり、メンバー全員の機種の操作を熟知する必要があります。

22年遭難事故について、道迷いや転倒などの事故は多いが死者も多く、特徴的なことは、増水による遭難、行方不明などがあった。また尻別岳の雪崩事故について状況報告があり積雪期に向かい注意事項など学習しました。

翌日は、ビーコンの発信源を探しながら現地に向かい、尾根の上から30m急斜面を使いポートを引き上げました。

この2日で、実際に体験することにより、山岳事故に対する対応作や対処方法について、参加者から色々な質問や意見が出るなど楽しく有意義な研修が行われました。

◎平成22年度冬期ジュニア登山教室報告

担当常任理事 増子 麗子

1月9日(土)10日(日)、深川市「ゆ〜すくる おとえ」で、小学生3保護者1計4名で実施した。現地指導者として秩父別山岳会・深川岳悠会から3名の協力をいただいた。

内容は、1日目は講義、工作、クライミング、2日目はスノーシューハイク、テント生活体験でした。

(参加者感想1) 二回目の冬季ジュニア登山教室 6年 千葉匠太郎君

一月九日・十日の日程で小樽からおじいちゃんの車で、三年生の妹と同じく三年生のいとこの四人で参加しました。深川まで四時間半もかかり、着いたのは受付時間ギリギリの一時半でした。遠いなあ〜と思いました。

ぼくが体験した中で楽しかったのは、クライミングです。深川青年の家にあるクライミングボードは、十メートルもあります。全部の色を使って登るのは、そう難しくありません。ぼくは、一つの色だけを使って登っていく方法で上を目指しました。その方法は、石と石の間が広いのでめいっぱい足を広げたり手を広げたりして上に行きます。ぼくたちは、ハーネスという安全装置をつけていることと、スタッフの方達がいてくれるので安心して登っていくことができます。上から見たらやっぱり十メートルは高いなと思いました。怖さは感じませんでした。とっても楽しくて二時間なんてあっという間に過ぎてしまいました。

小樽には、クライミングを室内で体験できる場所がないので、貴重な体験ができたと思っています。

二日目は、スノーシューをはいて、この青年の家のまわりを歩きました。三瓶山に行く予定でしたが、山の方は吹雪そうだったので、山には行きませんでした。テントをはって来てその中で温かいミルクを飲みました。寒い所での温かい飲み物はとってもおいしかったです。

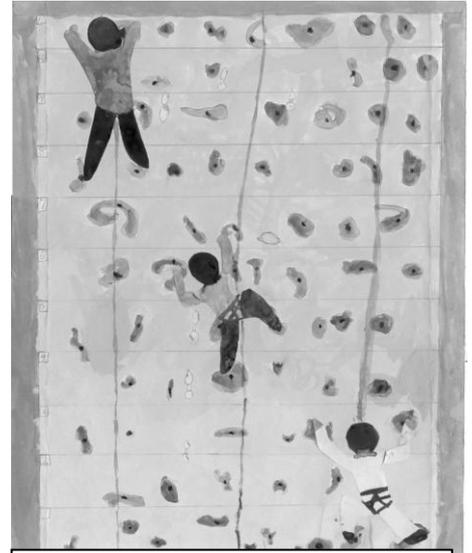
ぼくのおじいちゃんは、夏は夏の登山教室や海、冬はこの体験活動やスキーによく連れて行ってくれます。いつまでも元気でいてほしいと思います。

終わり

(参加者感想 2) 楽しかったな登山教室 小学生 鈴木 詩穂

わたしは、いとこと、いとこのおにいちゃんと、おじいちゃんと、いっしょに登山学校にいきました。登山学校は、5回目だけれど、冬は2回です。一番楽しかったのは、クライミングです。上にいったら、いっただけ、こわくなります。でも、おりの時は、地面を歩くかえるじゃなくて、かべをおりのかえるみたいに、とんでおります。こわいけれどなぜか楽しいなおもいます。みなさんはそんなことがありますか。わたしはそのようなことがまいにちあるぐらいの日々です。

わたしは、クライミングをまいにちやりたいとおもいます。わたしは、登山学校でスノーシューをはいてそとをあるきました。はがむしにみえてびっくりしたとおおさわぎ。いろんなことがあったけれど楽しくあそべた時間はあつというまででした。そのよるは、おかあさんとおとうさんといっしょにわらってすごしました。



小学3年 千葉明加ちゃんの絵

(保護者からの礼状 1) 千葉 尚美

先日の9日・10日は、子供たちがお世話になり、ありがとうございました。

冬季はなかなか参加者が増えず、今回も子供は3人のみだったと聞きましたが、その分クライミングの時には手厚くサポートしてもらえたりと、楽しく過ごさせてもらえたようです。

夏の登山学校や今回も自然相手のこと。計画通りに予定が進まない(出来ない)こともあるようですが、その都度、別のメニューを準備して子供達をあきさせないようにしていただいているご尽力に、感謝いたします。

今回の様子の感想文を書くように父より話を聞き、6年の匠太朗に書かせました。絵は3年の明加(あすか)です。どちらも完璧ではありませんが、体験したことは楽しかったのです、とのおもいから出来上がりました。送らせていただきます。(中略)

日高も深川も小樽からはやはり遠い場所です。父が元気でないと参加も難しくなってしまうので、いつまでも元気でいてほしいです。

乱筆乱文ではありますが、御礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(保護者からの礼状 2) 鈴木 和代

ご無沙汰しております。お変わりありませんか。

今回の登山学校では娘が大変お世話になりました。ありがとうございました。

普段の生活の中で経験することのできないことをさせてもらい、その関わりの中で、娘が何かを感じてくれたらという思いで、参加させていただいています。

増子さんをはじめ、スタッフの方々の細やかな配慮とてもありがたく、うれしく思っております。

遅くなりました。詩穂の今回の体験の感想です。もう少し色々な面の表現ができれば良かったのですが、あまり言うと娘が混乱しそうだったので、娘の思いをそのまま送らせていただきました。誤字・脱字も直してありません。ごめんなさい。

寒さに向います。ご自愛ください。

◎平成22年度氷壁技術研修会報告

指導委員長 明田 通世

1月22日（土）23日（日）、海外委員会・指導委員会連携の下に層雲峡銀河の滝で実施された。参加者は例年になく多く、男性9名女性5名の13名が熱心に氷結した滝に挑んだ。講師は2000年のエベレスト登頂者である江崎・工藤の両氏で、基礎的氷壁技術の指導を懇切丁寧に行った。

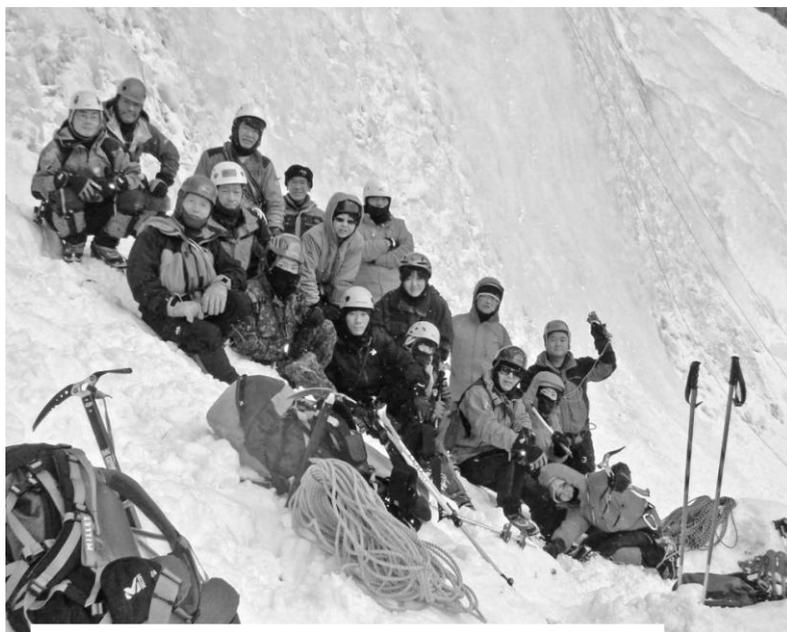
銀河の滝は日本の100滝に選ばれ落差120mあり女性的な滝として形容されているが氷で覆われた姿は圧巻である。そこに集まった14名がそれぞれのアックス、クランポンを駆使し登る意気込みは熱いものがある。初日は基本動作の繰り返しでアックスの振り方、クランポンでの立ちこみ等講師から丁寧な指導を受け納得。しかしトップロープでの実践スタイルになると声は大きいが高みにはなかなか手が届かない様子。2本、3本と繰り返しているうちにお褒めの言葉を頂戴する夕開せまる頃宿舎に移動して机上での勉強会となる。ベーシックポジション、トライアングルポジション、アイススクリュアのセット支点の作り方を明日へ向かい頭に叩き込む「もう勘弁して」・・・20時になった。

二日目はハードルの高い練習に入りスクリュアを打ちリード形式を学ぶ。氷壁に立ちこみ片手で身を確保しながら廻す難しさ、足はガタガタミシンを踏む姿に「負けるものか」とかけ声だけがこだまする。別の班ではエベレストをイメージしてアッセンダーでフィックスロープを登下高するのに力が入っている今の力では最上部まで手が届かないがいつの日かきっと、と夢見ている研修生でした。

両日、我が子のように手とり足とり教えていただいた講師の方々に感謝をして来年も「来るぞ」と固い約束を交わし下りる。



講師の二人（江崎氏・工藤氏）



研修を終わって

発行	北海道山岳連盟
事務所	札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502 小野 倫夫
編集担当	神山 健